

第9回 住 宅 系 研究報告会

会場：建築会館会議室

2014年12月5日(金)、12月6日(土)

昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を目的に、第9回目住宅系研究報告会を開催します。

発表論文は20編、優れた論文が集まりました。報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを目指しています。

第一日目夕方には、パネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

住宅・住宅系まちづくりの研究に取り組む研究者・大学院生の、多数のご参加をお待ちしています。

□1日目 (12月5日)

- 開会の挨拶・主旨説明:岡 絵理子(関西大学) 12:50~13:00 (C)コメンテーター
- セッション1** [居住ニーズと住宅計画] 13:00~14:30 5編 (C)花里 俊廣(筑波大学)
- セッション2** [地域特性と住まいの改善] 14:45~15:45 3編 (C)碓田 智子(大阪教育大学)
- パネルディスカッション** 16:00~18:00
- 【テーマ】「空き家 住宅系研究の視点から」
- 【趣 旨】
- 近年、空き家問題が全国津々浦々で顕在化し、その再生や活用に向けた取り組み等が盛んに行われている。そのような対処療法的な取り組みに加えて、これからさらに増加していくこと想定される空き家の諸問題には、どのような対応が必要になってくるのであろうか。このときに、建築学としての住宅系研究はどのような展開をしていく必要があるのだろうか？
- パネリストからは、空き家問題の所在とその対応方法などについて報告をいただくとともに、今後の住宅系研究における展開方向について、会場の研究者らと議論を交わしたい。
- 【パネラー】
- 1)長谷川 洋(国土技術政策総合研究所) :マクロ的な視点から
2)鈴木 雅之(千葉大学) :団地再生の視点から
3)山本 幸子(筑波大学) :利活用する仕組みから
- 【コーディネータ】
山崎 義人(兵庫県立大学)
- 懇親会** 18:30~

□2日目 (12月6日)

- セッション4** [歴史的居住環境の保全・再生] 10:30~12:15 6編 (C)山崎 義人(兵庫県立大学)
- セッション5** [住宅地とコミュニティの応答] 13:00~14:15 6編 (C)田中 友章(明治大学)
- 閉会の挨拶:中田 悟(東京都市大学) 14:15~14:25

●参加費:会員 3,000 円、会員外 4,000 円、学生 1,500 円

●資料代: 5,000 円 ※報告会終了後も、建築書店を通して購入していただけます。

●定 員: 90 名(当日先着順)

